

事例 8 卒業後の進路実現を目指すために ICT を活用して学習を深める事例

- 学年 知的障害特別支援学級（3年）
- 指導内容及び指導の形態 教科別の指導「数学」
- 事例のポイント
 - ① ICT 端末を活用することで、繰り返し学習し知識を定着させることができる環境づくりをする。
 - ② 自身の取り組みを仲間を紹介することで、より学習の理解を深める。また、仲間の取組を知ることによって、自主学習への参考にさせる。
 - ③ 卒業後の進路実現を目指すために、自身の得意な領域と不得意な領域を理解し学習に臨む態度を育成する。

ICT を活用した主な学習場面

- ・自身の得意な領域や不得意な領域の繰り返し学習する場面
- ・自身の取り組みを仲間を紹介する場面

ICT 活用の利点

- ① ICT 端末内の学習支援ソフト（ドリルパーク）を活用することで、繰り返し学習をすることができる。
- ② ICT 端末を活用することで、手軽に自身の取り組みを共有することができる。
- ③ ICT 端末の特性を活かし、自主学習に役立てることができる。

1 題材名 「数学の苦手を克服しよう」

2 題材設定の理由

(1) 生徒の実態

本学級は、知的障害特別支援学級である。明るく朗らかな性格の生徒が多く、生徒間トラブルが年々減少し、現在はほとんどない。学習面では、毎日ノート1ページ分自身で課題を設定する家庭学習に入学時より継続して取り組んだ結果、コツコツ学習に取り組む態度が身についてきた。しかし、進路実現に向けて自身のやるべき課題と正面から向き合ったり、客観的に状況を把握したりする力は、まだ改善の余地がある。

上記のことから、事前のアンケート結果を基に、自身の得意な領域と不得意な領域を視覚的に分かりやすくすることで、得意な領域にはより自信をもって取り組み、不得意な領域には目を背けず向き合うことができるようにするために課題を設定した。

(2) 題材について

本題材では、実際に過去に出題された県立特別支援学校高等部職業学科及び高等部分校の過去問題を用いて、その傾向と対策について ICT 端末を用いて自己分析する。また、結果に基づき自身の得意な領域のさらなる成長と不得意な領域を克服できるようにするために課題を設定した。また、ICT 端末を活用することで、自身の解いた問題を AI に分析させ、類似問題に取り組んだり、自身が取り組んだ問題を仲間を紹介したりすることで、後の自主学習への取り組みに幅が出て、工夫して学習に取り組むきっかけになるように課題を設定した。

(3) 指導・支援について

指導にあたっては、自己分析した県立特別支援学校高等部職業学科及び高等部分校の過去問題の結果を基に自身の得意な領域と不得意な領域の問題に、ICT 端末に内蔵されている学習支援ソフトを活用して取り組ませる。

算数・数学に係る得意な領域に取り組むだけでなく、不得意な領域に取り組む、バランスよく学習することの良さや大切さに気付かせる。

また、ICT 端末の学習ソフトを使い、学習を進めることで、自身が取り組んだ問題を AI

分析させ、類似問題に取り組めるようにする。

最後に、本時の自身の取り組みを仲間と共有することで、他者の取り組みを参考にし、自身では気がつかなかった見方や考え方に気が付き、後の自主学習への取り組みへの幅をもたせることができるようになることを願い課題を設定した。

3 生徒の実態

	生徒の実態
A (3年)	<ul style="list-style-type: none"> ・四則計算においては、加法、乗法については計算ができるが、減法、除法については計算を誤ることがある。 ・時間の計算では【分】と【時間】の計算につまずきがみられる。 ・繰り返し学習すると短期的な記憶にはつながるが、時間が空いてしまったり、初見の問題に弱い傾向がある。 ・粘り強く最後まで問題に取り組むことができる。
B (3年)	<ul style="list-style-type: none"> ・四則計算は計算ができる。 ・グラフの読み取り問題に躓きがみられ、1目盛りの数量を見誤ることが度々ある。 ・問題文の読み取りが苦手で、出てくる数字をそのまま式にあてはめ、四則計算の活用を誤ることがある。 ・丁寧に読みやすい文字を書くことができる。
C (3年)	<ul style="list-style-type: none"> ・四則計算は計算ができるが、計算に時間がかかることがある。 ・図形の読み取りが苦手である。 ・文章題では式を立てられないことがある。 ・人前に立っても、堂々と発表することができる。

4 目標

- ・自身の不得意な領域を理解し、問題に取り組む正答を求めることができる。【知識及び技能】
- ・自己分析を基に、自己の課題について理解し、問題に取り組むことができる。【思考力・判断力・表現力等】
- ・自身の学習を振り返り、今後の学習等に活用しようとしている。【学びに向かう力・人間性等】

特支編成要領 P25～ 指導計画作成上の留意事項(7)(10)(12)(15)

5 指導計画 (全14時間扱い)

	指導内容	授業目標	授業時数
2学期前半	<ul style="list-style-type: none"> ・県立特別支援学校高等部職業学科及び高等部分校の入試過去問題5年分に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わからない問題があってもあきらめずに制限時間の最後まで問題に取り組む正答を求めることができる。【知識及び技能】 	5
	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組んだ県立特別支援学校高等部職業学科及び高等部分校の入試過去問題5年分の正答をアンケート形式で入力し、データ化し、視覚的にわかりやすくすることで、自己分析を図る。 ・自己分析したデータを基に得意な領域はさらに伸ばし、不得意な領域の克服を図る。また、自身の学習への取り組みを紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の得意な領域と不得意な領域を理解し、得意な領域の問題にはより正確に、不得意な領域の問題には粘り強く理解できるようにあきらめずに問題に取り組むことができる。【思考力・判断力・表現力等】 ・自己分析を基に、ICT端末の学習支援ソフトを活用し、学習に取り組むことができる。【思考力・判断力・表現力等】 	2(本時)

2 学期後半	・ 2 学期前半に取り組んだ、県立特別支援学校高等部職業学科及び高等部分校の入試問題 5 年分に再び取り組む。	・ 自身の得意な領域や不得意な領域の問題を理解したうえで、全体のバランスをみて問題に取り組む順番や時間配分を考え問題に取り組むことができる。【思考力・判断力・表現力等】	5
	・ 改めてデータ分析することで、自身が最も不得意な領域をあぶりだすとともに自身の成長も実感させ、自信を持たせる。	・ 冬季休業中に最優先で取り組まなければならない課題を明確にしようとする。【主体的に学習に取り組む態度】	2

6 本時の学習 (本時 7 / 14 時)

(1) 本時の目標

① 共通目標

- ・ 自身の不得意な領域を理解し、問題に取り組み正答を求めることができる。【知識及び技能】
- ・ 自身で学んだ学習を振り返り、今後の自主学習等に活用しようとしている。【学びに向かう力・人間性等】

② 個人目標

	目標
生徒 A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「時刻と時間の求め方について【分】と【時間】を変換しながら計算すること」ができる。【知識及び技能】 ・ 自身の課題を踏まえ「時刻と時間の求め方」の考え方や問題への取り組み方を伝えることができる。【思考力・判断力・表現力等】 ・ 自身で学んだ学習を振り返り、今後の学習に活かそうとしている。【学びに向かう力・人間性等】
生徒 B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「棒グラフと表について【1目盛りが表す数】について着目しよみとること」ができる。【知識及び技能】 ・ 自身の課題を踏まえ「棒グラフと表」の考え方や問題への取り組み方を伝えることができる。【思考力・判断力・表現力等】 ・ 自身で学んだ学習を振り返り、今後の学習に活かそうとしている。【学びに向かう力・人間性等】
生徒 C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「平行四辺形の特徴」を理解し選ぶことができる。【知識及び技能】 ・ 自身の課題を踏まえ「いろいろな四角形」の考え方や問題への取り組み方を伝えることができる。【思考力・判断力・表現力等】 ・ 自身で学んだ学習を振り返り、今後の学習に活かそうとしている。【学びに向かう力・人間性等】

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点 (※指導の手立て*評価の観点) ○生徒の活動			備考
		◎予想される生徒の反応 □指導者の主な指示、発問			
		A	B	C	
5分	1 挨拶。 2 本時の活動内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ Aの号令で先言後礼を意識して挨拶をする。 □ 本時の流れを説明する。 ○ 話を聞く姿勢を保ち、活動内容を思い浮かべる。 			

<p>25分</p> <p>3 ICT 端末を 使い、 問題を 解く。</p> <p>ICT活用の利点① 繰り返し学習することができる。</p>		<p>事例のポイント① 自身の得意な領域や苦手な領域を繰り返し学習する。</p> <p>課題：① ICT端末を使って自分の苦手な問題に取り組もう。</p> <p>○「時刻と時間のもとめ方」の問題について取り組む。 ◎問題には取り組むが正しい答えを導き出せないことがある。 ※間違えが多いようであれば、【分】と【時間】の問題に立ち戻らせる。 *自身の課題を踏まえ「時刻と時間のもとめ方」の考え方や問題に取り組む正答を求めている。【知・技】</p>	<p>○「ぼうグラフと表」の問題について取り組む。 ◎問題には取り組むが正しい答えを導き出せないことがある。 ※間違えが多いようであれば、【ぼうグラフの1メモリの大きさ】について考えさせる。 *自身の課題を踏まえ「ぼうグラフと表」の考え方や問題に取り組む正答を求めている。【知・技】</p>	<p>○「いろいろな四角形」の問題に取り組む。 ◎どの問題に取り組んでいいのかかわからず、手が止まってしまうことがある。 ※手が止まってしまう場合は、取り組むべき問題を指定する。 *自身の課題を踏まえ「いろいろな四角形」の考え方や問題に取り組む正答を求めている。【知・技】</p>	
<p>15分</p> <p>4 自身の 取り組みを 紹介する。</p> <p>ICT活用の利点② 自身の取り組みを共有することができる。</p> <p>事例のポイント③ 自身の苦手な領域を理解し学習に臨む態度を育てる。</p>		<p>課題：②取り組んだ問題をみんなに紹介しよう</p> <p>○「時刻と時間のもとめ方」について考え方や問題の解き方について発表する。 ◎話型を指定すれば、自分で発表原稿を作成し、発表することができる。発表時に早口になってしまい聞き取りにくいことがある。 ※話型を指定し適切な言葉を選んでいるか確認する。発表が早口にならないように音読練習をさせる。 *自身で学んだ学習を振り返り、今後どのように学習していくか考えようとしている。【態】</p>	<p>○「ぼうグラフと表」について考え方や問題の解き方について発表する。 ◎話型を指定すれば、自分で発表原稿を作成し、発表することができる。発表時に恥ずかしがり声小さくなることもある。 ※話型を指定し適切な言葉を選んでいるか確認する。自信をもって発表できるように、事前に発表練習をさせる。 *自身で学んだ学習を振り返り、今後どのように学習していくか考えようとしている。【態】</p>	<p>事例のポイント② 自身の取り組みを仲間に紹介する。</p> <p>○「いろいろな四角形」について考え方や問題の解き方について発表する。 ◎どの言葉を選んでよいかかわからず、手が止まってしまうことがある。発表原稿ができれば堂々と発表することができる。 ※手が止まっている場合は、必要な用語を提示する。 *自身で学んだ学習を振り返り、今後どのように学習していくか考えようとしている。【態】</p>	

5分	5本時のまとめ。 6挨拶。	□各個人の学習を振り返り、今後の <u>自主学習の参考</u> にするように促す。 ○Aの号令で先言後礼を意識して挨拶をする。	ICT活用の利点③ 自主学習に役立てることができる。
----	------------------	--	-------------------------------

7 本時の評価

① 共通評価

- ・自身の不得意な領域を理解し、問題に取り組み正答を求めることができたか。【知識・技能】
- ・自身で学んだ学習を振り返り、今後の自主学習等に活用しようとしていたか。【主体的に学習に取り組む態度】

② 個人評価

	目標
生徒A	<ul style="list-style-type: none"> ・「時刻と時間のもとめ方について【分】と【時間】を変換しながら計算することができたか。【知識・技能】 ・自身の課題を踏まえ「時刻と時間のもとめ方」の考え方や問題への取り組み方を伝えることができたか。【思考・判断・表現】 ・自身で学んだ学習を振り返り、今後の学習に活かそうとしていたか。【主体的に学習に取り組む態度】
生徒B	<ul style="list-style-type: none"> ・「ぼうグラフと表について【1メモリが表す数】について着目しよみとることができたか。【知識・技能】 ・自身の課題を踏まえ「ぼうグラフと表」の考え方や問題への取り組み方を伝えることができたか。【思考・判断・表現】 ・自身で学んだ学習を振り返り、今後の学習に活かそうとしていたか。【主体的に学習に取り組む態度】
生徒C	<ul style="list-style-type: none"> ・「平行四辺形の特徴」を理解し選ぶことができたか。【知識・技能】 ・自身の課題を踏まえ「いろいろな四角形」の考え方や問題への取り組み方を伝えることができたか。【思考・判断・表現】 ・自身で学んだ学習を振り返り、今後の学習に活かそうとしていたか。【主体的に学習に取り組む態度】

8 備考

教室環境図

